

令和6年11月15日

東京都千代田区四番町5番地3  
科学技術振興機構（JST）  
Tel : 03-5214-8404（広報課）  
URL <https://www.jst.go.jp>

## 日ASEAN科学技術・イノベーション協働連携事業（NEXUS） 2024年度若手人材交流プログラム公募における交流計画の採択について

JST（理事長 橋本 和仁）は、日ASEAN科学技術・イノベーション協働連携事業（NEXUS）<sup>注1）</sup>における2024年度若手人材交流プログラムの交流計画の採択を公募により決定しました。

NEXUSでは、「日ASEAN友好協力50周年」を機に、日ASEANの長きにわたる国際共同研究や研究人材交流の取り組みを基盤とし、双方の強みを生かした柔軟で重層的な科学技術協力を推進しています。

その取り組みの1つである若手人材交流プログラムでは、日本とASEAN諸国の若手研究人材の相互交流や関係構築、国際頭脳循環の活性化および次世代の優秀な研究者の育成に貢献することを目指します。

本年度の公募では、2024年6月17日（月）から9月9日（月）までの期間に合計83件の応募がありました。これらの応募について、若手人材交流・育成推進委員会（運営主幹：小尾 晋之介 慶應義塾大学 理工学部 機械工学科 教授）による審議を経て、46件の採択を決定しました。採択された交流計画における日本側交流機関の内訳は、大学が23校、国立研究開発法人が1機関となりました（別紙）。

「NEXUS 若手人材交流プログラム」のホームページ<sup>※</sup>には、関連情報を掲載しています。

注1）日ASEAN科学技術・イノベーション協働連携事業（NEXUS）

NEXUS : Networked Exchange, United Strength for Stronger Partnerships between Japan and ASEAN

※）NEXUS 若手人材交流プログラムホームページ

URL : <https://www.jst.go.jp/aspire/nexus/y-tec/index.html>

### <添付資料>

別紙：2024年度 日ASEAN科学技術・イノベーション協働連携事業 若手人材交流プログラム 採択交流計画一覧

参考：2024年度 日ASEAN科学技術・イノベーション協働連携事業 若手人材交流プログラム概要

### <お問い合わせ先>

科学技術振興機構 経営企画部 さくらサイエンスプログラム推進本部

〒102-8666 東京都千代田区四番町5番地3

石黒 傑（イシグロ スグル）

Tel : 03-5214-8997 Fax : 03-5214-8445

E-mail : [ssp.press@jst.go.jp](mailto:ssp.press@jst.go.jp)

### ＜科学を支え、未来へつなぐ＞

例えば、世界的な気候変動、エネルギーや資源、感染症や食料の問題。私たちの行く手にはあまたの困難が立ちはだかり、乗り越えるための解が求められています。JSTは、これらの困難に「科学技術」で挑みます。新たな価値を生み出すための基礎研究やスタートアップの支援、研究戦略の立案、研究の基盤となる人材の育成や情報の発信、国際卓越研究大学を支援する大学ファンドの運用など。JSTは荒波を渡る船の羅針盤となって進むべき道を示し、多角的に科学技術を支えながら、安全で豊かな暮らしを未来へとつなぎます。

JSTは、科学技術・イノベーション政策推進の中核的な役割を担う国立研究開発法人です。

No	日本側交流機関	実施担当者 <sup>(注1)</sup>	参加国 <sup>(注2)</sup>	コース	交流計画のテーマ
1	東北大学	田中 良和 大学院生命科学研究科 教授	タイ	若手人材	タイの海洋資源を利用したグリーンな抗 Dengue 化合物取得のための国際若手人材交流
2	東北大学	田中 良和 大学院生命科学研究科 教授	タイ	指導人材	最先端クライオ電顕装置を利用した研究推進のための指導人材の国際交流
3	東北大学	北川 尚美 大学院工学研究科 教授	マレーシア	若手人材	持続可能な油脂産業を拓くグリーンテクノロジー研究に関する次世代人材育成
4	山形大学	片平 光彦 農学部 教授・副学部長	ベトナム	若手人材	ICTを活用した水稻の有機栽培についての研究交流
5	筑波大学	前田 義昌 生命環境系 准教授	マレーシア	若手人材	地球規模課題の解決に持続環境科学の観点から貢献する高度実務専門家の育成に資する若手人材交流
6	東京大学	SUPPAKITPAISARN, Vorapong 情報理工学系研究科 特任准教授	シンガポール	指導人材	量子 AI 研究から共創教育・全研究科の国際交流への展開：東京大学とシンガポール国立大学の協力
7	東京大学	青木 陽介 地震研究所 国際地震・火山研究推進室 准教授	シンガポール	若手人材	アジア地域の火山活動の包括的理解
8	東京海洋大学	佐野 元彦 水圏生物生産工学研究所 リサーチコーディネーター（教授）	インドネシア、タイ、マレーシア ほか	若手人材	ASEANにおける持続的養殖生産に向けた魚病対策共同研究の推進能力向上プログラム
9	東京科学大学	吉村 千洋 環境・社会理工学院 教授	カンボジア	若手人材	環境光化学における共同研究を基盤とするグローバル人材育成
10	東京科学大学	竹内 希 工学院 准教授	ラオス	若手人材	再生可能エネルギーの活用に関するプラズマ・直流電力系統技術の理解と習得
11	中央大学	山村 寛 理工学部 教授	フィリピン	若手人材	脱炭素を目指した次世代水処理膜プロセス
12	東京都市大学	関口 和真 理工学部 機械システム工学科 教授	マレーシア	若手人材	グリーンスローモビリティの普及に必要な安全性を向上する制御技術の開発
13	東京都市大学	齋藤 圭 都市生活学部 都市生活工学科 准教授	マレーシア	若手人材	気候変動社会における都市環境改善に資するアクティブ技術とパッシブ技術の相互補完によるグリーンインフラ構築に向けた未来志向の学術交流
14	横浜市立大学	立川 仁典 大学院生命ナノシステム科学研究科 物質システム科学専攻 研究科長・教授	タイ	若手人材	グリーンテクノロジーのための最先端マルチスケール量子水素シミュレーション・データ科学を駆使した日タイ国際研究交流
15	長岡技術科学大学	佐々木 徹 技術科学イノベーション系 准教授	ベトナム	若手人材	電子・IT人材の実践的な融合交流によるグローバルな指導的技術者の育成
16	長岡技術科学大学	大塚 雄市 システム安全系 准教授	マレーシア	若手人材	Green Tribology を志向したメタマテリアル表面による摩擦制御
17	長岡技術科学大学	大沼 清 技術科学イノベーション系 准教授	タイ	若手人材	持続可能なナトリウムイオン電池に関する材料合成と評価法の修得
18	金沢大学	辻口 拓也 理工研究域 機械工学系 教授	マレーシア	若手人材	再生可能エネルギーの利用促進と二酸化炭素回収・有効活用を両立する液体エネルギーキャリアを利用した循環型社会の構築に向けた人事交流
19	北陸先端科学技術大学院大学	長尾 祐樹 先端科学技術研究科 教授	マレーシア	若手人材	マレーシアの環境・エネルギーに関する共同研究促進プログラム
20	名古屋大学	三屋 史朗 大学院生命農学研究科 准教授	タイ、カンボジア	若手人材	DAC農業技術の発展とグリーンテクノロジー推進に貢献する農学研修プログラム
21	名古屋工業大学	宮崎 秀俊 大学院工学研究科工学専攻 准教授	マレーシア、ベトナム、インドネシア	若手人材	循環型経済を目指したバーム油を活用した次世代エネルギー貯蔵材料の室温合成と実証実験
22	京都大学	田部 博康 高等研究院 特定講師	タイ	若手人材	配位高分子からなるCO <sub>2</sub> 再資源化触媒開発を通じた日タイ若手人材交流
23	京都大学	大野 美紀子 東南アジア地域研究研究所 准教授	ベトナム	指導人材	ベトナム大学・研究機関における研究データ管理（Research Data Management / RDM）スキーム構築への支援
24	京都大学	竹内 悠 大学院工学研究科 附属流域総合環境質研究センター 助教	マレーシア	指導人材	膜技術に基づく水処理と資源回収に関するリーダーシップ交流 Leadership Exchange on Water Treatment and Resource Recovery based on Membrane Technology
25	京都大学	佐野 紀彰 工学研究科 教授	タイ	若手人材	CO <sub>2</sub> から高付加価値物を生産する技術の国際共同開発に資する人材の育成
26	京都大学	佐川 尚 エネルギー科学研究科 教授	マレーシア	指導人材	量子ドット太陽電池の設計開発

27	大阪大学	正岡 重行 大学院工学研究科 応用化学専攻 教授	タイ	若手人材	若手国際脳循環が拓く「超グリーン水素」製造
28	大阪大学	近藤 勝義 接合科学研究所 教授	タイ、ベトナム、インドネシア ほか	若手人材	A S E A N域内初、接合科学研究拠点の展開に向け一地域に根差した接合・溶接研究の日A S E A N交流循環システムの構築
29	大阪大学	吉成 信人 大学院理学研究科 化学専攻 教授	タイ、マレーシア	若手人材	次世代二次電池開発を先導する理学人材の交流プログラム
30	大阪大学	吉成 信人 大学院理学研究科 化学専攻 教授	タイ	指導人材	次世代電池開発を先導する理学人材の交流プログラム
31	大阪大学	住村 欣範 グローバルイニシアティブ機構 教授	インドネシア、ブルネイ、フィリピン ほか	若手人材	A S E A N諸国の持続可能な発展に資する優秀な若手人材育成のための交流
32	関西学院大学	藤原 明比古 工学部 教授	ベトナム	指導人材	酸化物半導体の物性探索とデバイス応用
33	奈良先端科学技術大学院大学	サクティ・サクリアニ・ワティアスリ 先端科学技術研究科 情報科学領域 教授	インドネシア、シンガポール、ベトナム ほか	若手人材	ソサエティ5.0に向けた人間とAIのマルチモーダル相互作用に関する共同研究：A S E A Nにおける言語多様性、文化保存、および技術革新に向けた取り組み
34	奈良先端科学技術大学院大学	別所 康全 先端科学技術研究科 バイオサイエンス領域 バイオサイエンス領域長	インドネシア	若手人材	インドネシアN A I S T 同窓会をハブとした革新的バイオサイエンス人材交流
35	奈良先端科学技術大学院大学	松本 健一 先端科学技術研究科 情報科学領域 教授	インドネシア、シンガポール	若手人材	Green AI Application (GAIA) プログラム：AI活用による持続可能な社会の実現、その共創とイノベーション人材育成
36	奈良先端科学技術大学院大学	網代 広治 先端科学技術研究科 物質創成科学領域 教授	タイ、ベトナム	若手人材	グリーンテクノロジーを支える新規材料創出
37	山口大学	今井 剛 大学院創成科学研究科 建設環境系専攻 教授	タイ	若手人材	脱炭素社会実現に資する新たなイノベーション共創の関係構築のための若手人材交流
38	山口大学	古賀 毅 大学院創成科学研究科 建設環境系専攻 教授	マレーシア	若手人材	持続可能なモビリティのための自動車のグリーンプラットフォーム共創の関係強化のための若手人材交流
39	九州大学	澤江 義則 工学研究院 機械工学部門 教授	マレーシア	若手人材	環境適合性トライボマテリアル技術と水素利用技術の融合に関する研究人材交流
40	九州大学	木村 拓也 人間環境学研究院 教授/アジアオセアニア研究教育機構 社会クラスター長	ベトナム	若手人材	国内外の高校と大学が協働する半導体人材の頭脳循環プログラム
41	九州大学	米津 幸太郎 大学院工学研究院 准教授	カンボジア、フィリピン、ベトナム	若手人材	グリーンテクノロジーを支える鉱物資源探査・開発のための日・A S E A N協働
42	九州大学	佐藤 文一 マス・フォア・インダストリ研究所 教授	マレーシア	指導人材	日本とマレーシアの最先端産業応用数学の研究協力
43	九州工業大学	長山 暁子 工学研究院 教授	マレーシア	若手人材	セルフクリーニングコーティングを用いた太陽電池パネルの冷却技術
44	長崎大学	大田 真彦 大学院総合生産科学研究科（環境科学系） 准教授	マレーシア	若手人材	マレーシアにおけるサーキュラーエコノミーのローカルモデル構築のための若手人材交流
45	鹿児島大学	木下 英二 学術研究院 理工学域 工学系 教授	マレーシア	若手人材	再生可能エネルギー・水素利用分野における人材の育成
46	国立研究開発法人 理化学研究所	渡邊 功雄 仁科加速器科学研究センター 核構造研究部 専任研究員	マレーシア	若手人材	ビッグファシリティとマテリアルズインフォマティクスで創出する循環型蓄エネルギー材料

注1) 実施担当者の所属は提案書より引用

注2) 参加国は提案時の予定

## 2024年度 日ASEAN科学技術・イノベーション協働連携事業 若手人材交流プログラム概要

### 1. 事業・プログラムの目的

日本とASEANは友好協力50周年を迎え、関係強化が一層重要になっているとの認識の下、令和5年度より日ASEAN科学技術・イノベーション協働連携事業（以下、「本事業」という。）が措置されました。本事業は、これまで日本とASEAN諸国との間で実施してきた国際共同研究や人材交流の取り組みを基盤としつつ、ASEAN諸国との持続可能な研究協力関係をさらに強化し、新たなイノベーションを共創していく関係へと発展させることを目指すものです。

上記の取り組みの1つである若手人材交流プログラム（以下、「本プログラム」という。）は、高校生を含む原則40歳以下の学生、研究者、教員、科学技術に関わる業務に従事する方を対象とし、先端分野などの科学技術分野全般における相互交流（派遣、招へい）を支援することにより、日ASEANの若手人材の交流や関係構築を図り、国際頭脳循環の活性化および次世代の優秀な研究者の育成に貢献するものです。

### 2. 対象とする国・地域

ASEAN（東南アジア諸国連合）に加盟する以下の10カ国が対象。

インドネシア、カンボジア、シンガポール、タイ、フィリピン、ブルネイ、ベトナム、マレーシア、ミャンマー、ラオス

### 3. 対象とする分野・テーマ

科学技術（自然科学、人文科学および社会科学）分野の交流全体を対象とします。

本事業の国際共同研究プログラムにおける日本と相手国の共通重点分野などを踏まえ、本プログラムでは、以下の相手国との共通重点分野の交流計画を推奨しています。

- ・フィリピン：「水安全保障」およびこれに関連する分野をテーマとした交流計画
- ・シンガポール：「AI」およびこれに関連する分野をテーマとした交流計画
- ・タイ：「グリーンテクノロジー」およびこれに関連する分野をテーマとした交流計画
- ・マレーシア：「グリーンテクノロジー」およびこれに関連する分野をテーマとした交流計画
- ・インドネシア：「バイオものづくり」およびこれに関連する分野をテーマとした交流計画
- ・ベトナム：「半導体」およびこれに関連する分野をテーマとした交流計画

### 4. 交流コース

本プログラムは2コースから構成されます。

#### （1）若手人材交流コース

原則40歳以下の日ASEANの若手人材の双方向の交流を通じて人材を育成し、国際頭脳循環の促進、機関間協力の基盤強化や、将来の国際共同研究などを担う人材層の拡充に資する交流計画を対象とします。

- ・交流期間：最大1年間、招へい・派遣期間は最大90日／人

- ・対象：原則40歳以下の高校生、高等専門学校生、大学生、大学院生、ポストドクター、教員、公的機関で科学技術に関連する業務に従事する者および民間企業において研究開発業務などに従事する者
- ・参加人数（引率者を含める）：15名以下
- ・支援金額：原則700万円以内

## （2）指導人材交流コース

研究および教育・研究指導力の向上を目指す日ASEANの高等教育機関の教員などが、双方向の交流を通じて研究力や若手人材への指導力を向上させることで、機関間連携の深化・強化や若手人材の育成等の人材育成基盤強化に資する交流計画を対象とします。

- ・交流期間：最大1年間、招へい・派遣期間は最大90日／人
- ・対象：ポストドクター、教員、公的機関で科学技術に関連する業務に従事する者および民間企業において研究開発業務などに従事する者
- ・参加人数：2名以下
- ・支援金額：原則300万円以内

以上